

111. 南アフリカの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート 2023年6月30日

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類半期報告書」の各品目について訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。1米ドル=約19.77ランド(2023年5月末現在)

報告書の要点

南アフリカの2022/23販売年度(以下「年度」)のオレンジとレモンの生産量は、栽培面積の停滞と収量が平年並みに戻ることに伴い、減少すると予想される。グレープフルーツとタンジェリン/マンダリンの2022/23年度の実績は、主要産地の良好な気象条件により、わずかに増加すると予想される。柑橘類業界は、農業投入資材コストの増加、高い輸送コスト、インフラの非効率性、新しい植物検疫規制など、いくつかの課題に直面している。その結果、業界の収益性と持続可能性が脅かされ、将来の投資が制約される可能性がある。米国は依然としてプレミアム市場と考えられており、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく米国向け柑橘類の免税輸出は、前年比で力強い成長を続けると予想される。

<オレンジ(生鮮)>

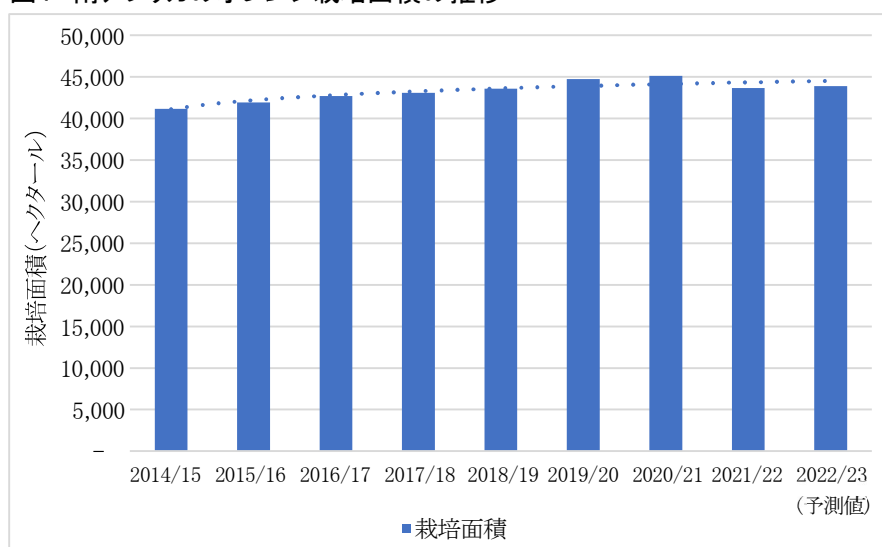
栽培面積

南アフリカの柑橘類果樹園は約9万6,277ヘクタールで、そのうちオレンジ果樹園が約45%を占めている。オレンジの栽培面積は過去7年間でほぼ4%、すなわち年平均1%増加した。しかし、オレンジ栽培面積の増加は、西ケープ州とリンポポ州の産地におけるソフト柑橘類への積極的なシフトによって制約されている。当事務所は、2022/23年度のオレンジの栽培面積を、ごくわずかな新植による0.5%増の4万3,900ヘクタールと予測する。

農業投入資材コストの増加、高い輸送コスト、計画停電等インフラの非効率性、効率的でない港湾運営、道路網の劣化、及びEUの新たな植物検疫規則により、オレンジ生産者の収益性が低下し、業界による継続的な投資が制約されている。当事務所は、2021/22年度のオレンジの栽培面積は、2020/21年度の4万5,123ヘクタールから4万3,668ヘクタールに3%減少したものと推定する。

投入資材コストの高騰と実質輸出価格の下落により、生鮮消費と加工のために国内市場で販売されるオレンジが増加した。当事務所の情報提供者らは、一部の果実が家畜飼料としても販売されたことを確認したが、収穫物の一部は利用されず、生産者の収益性が低下し、栽培拡大への投資が制約された。図1に、オレンジの栽培面積の推移を示す。

図1 南アフリカのオレンジ栽培面積の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

リンポポ州は南アフリカの主要なオレンジ産地であり、総栽培面積の48%を占め、東ケープ州(23%)と西ケープ州(14%)がこれに続く。

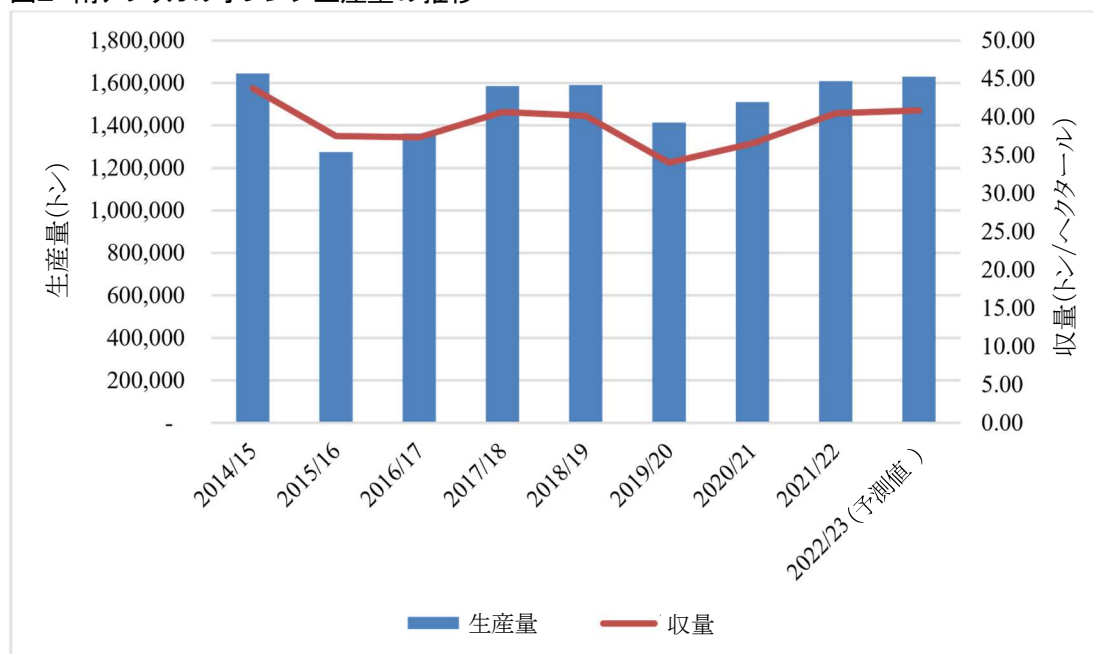
バレンシア種はオレンジ総栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。栽培されている主要栽培品種はミッドナイト(Midnight)バレンシアで総面積の26%を占め、バレンシアレート(Valencia Late 10%)、デルタ(Delta 9%)、ターキー(Turkey 7%)がそれに続く。南アフリカで栽培されるこの他の栽培品種は、ベニー(Bennie)、パーマー(Palmer)、カンブリア(Cambria)、バイアニーニャ(Bahianinha)、ワシントン(Washington)等である。

生産

当事務所は、南アフリカの2022/23年度のオレンジ生産量の予測を下方修正し、2021/22年度の161万トンから1%増となる163万トンとする。西ケープ州では雹を伴う雨や強風の被害を受け、生産量に影響が出る可能性がある。さらに、東ケープ州では大雨に見舞われ、生産量が減少する可能性がある。しかし、他のオレンジ産地は天候条件が良く、十分な灌漑用水がある。

当事務所は、2021/22年度のオレンジ生産量は前年比6.5%増加したものと推定する。この生産量の増加は、主要産地でシーズンを通して降った平均以上の降雨により十分な灌漑用水が確保され、生産に有利な条件が整ったためである。当事務所は2020/21年度の南アフリカのオレンジ生産量を151万トンと推定する。図2に、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量を示す。

図2 南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、輸出可能な果実の生産量の増加と南アフリカ通貨の弱体化による輸出条件の一層の好転に基づき、2022/23年度の南アフリカのオレンジ輸出量を前年度比5%増で史上最高水準の136万トンと予測する。2020/21年度及び2021/22年度には、生産量の伸びにもかかわらず、南アフリカのオレンジ輸出量は130万トンの横ばいであった。(表1)。

南アフリカは世界100か国以上にオレンジを輸出しているが、EUは引き続き南アフリカにとって最大の輸出市場であり、総輸出額のほぼ40%を占めている。しかし、柑橘類の輸出に免税アクセスを認めるEUとの自由貿易協定にもかかわらず、南アフリカは柑橘類の黒星病(CBS)と蛾の一種であるフォールスコドリグモス(FCM)の蔓延により、引き続きEU市場での植物検疫上の課題に直面している。柑橘類業界は、EU市

場のCBS及びFCMの要件に適合するために、年間約40億ランド(2億3,200万ドル)を費やしていると推定している。南アフリカは、EU市場を維持・成長させることを可能にするため、輸出前検査、厳格な防除手順、ほ場監視プログラム、輸送手順の遵守、及び包括的なCBSリスク管理システム等の措置を講じている。

EUは2022年7月14日以降、FCMの防除を確実にするために、柑橘類の輸入に当たって特定の低温処理と輸入前の一定の期間の予冷を行うことを要求している。これらの変更は南アフリカの輸出シーズンの真っ最中に導入されたため、実施が困難であり時間的に繊細な問題であった。昨年、推定1,350コンテナの柑橘類がEUの港で数週間留め置かれ、品質の低下と処理コストの増加により、推定2億ランド(1,200万ドル)の損失が発生した。南アフリカは、新しい規制で規定される低温処理について、世界貿易機関(WTO)におけるEUとの協議プロセスを2022年7月に開始した。WTOでの数か月の協議によっても、両当事者は相互に合意した議定書を得ることができなかった。したがって、今年の市場には不確実性があり、オレンジ生産者らは、2022/23年度のEU向け果実の約30%に当たる12万トンが、輸出されない可能性があるかと推定している。

表1 南アフリカの生鮮オレンジ輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 右と同時期(トン)	2022/23 これまで(トン)	増減率
オランダ	283,466	264,586	-7%	21	20	-5%
アラブ首長国連邦	105,057	110,113	5%	1,061	198	-81%
中国	72,744	96,892	33%	0	87	-
ロシア	86,289	85,153	-1%	0	62	-
英国	68,670	73,686	7%	199	96	-52%
サウジアラビア	74,370	66,208	-11%	49	25	-49%
バングラデシュ	61,624	59,977	-3%	0	0	-
ポルトガル	71,154	59,261	-17%	0	0	-
米国	47,501	59,192	25%	0	2	-
マレーシア	41,380	49,160	19%	24	24	0%
香港	46,506	47,692	3%	24	48	100%
カナダ	40,404	42,630	6%	81	46	-43%
イラク	41,810	41,475	-1%	0	120	-
イタリア	42,747	34,538	-19%	0	0	-
インド	21,093	28,173	34%	0	0	-
カタール	11,341	15,542	37%	0	42	-
シンガポール	10,174	12,894	27%	0	24	-
クウェート	17,218	10,689	-38%	0	14	-
その他	152,189	140,866	-7%	4,245	5,361	26%
合計	1,295,737	1,298,727	0%	5,704	6,169	8%

出典: Trade Data Monitor

中国への輸出量は2021/22年度にほぼ33%増加し、中国は現在、南アフリカにとって3番目に大きなオレンジ市場である。2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの柑橘類の輸出は、中国への輸送時間とコストを削減する画期的なものである。マプト港は、南アフリカ産柑橘類のアジア・中東市場向けの強化された玄関口である。南アフリカのオレンジのかなりの量は同国の北東部で生産され、ダーバン港よりもマプト港の方がかなり近い。

4番目に大きな市場であるロシアは、南アフリカのオレンジ総輸出量の7%を占めているが、輸出量は2020/21年度の8万6,289トンから2021/22年度には1%減少して8万5,153トンとなった。このわずかな減少は、ロシアのウクライナ侵攻により、ロシア市場への出荷が中断されたためである。

南アフリカの米国向け輸出は、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく免税アクセスの恩恵を受けて、増加を続けると予想される。米国へのオレンジ輸出量は、2020/21年度の4万7,501トンから2021/22年度には史上最高の5万9,192トンへと25%増加した。

表3 南アフリカのオレンジの生産需給統計

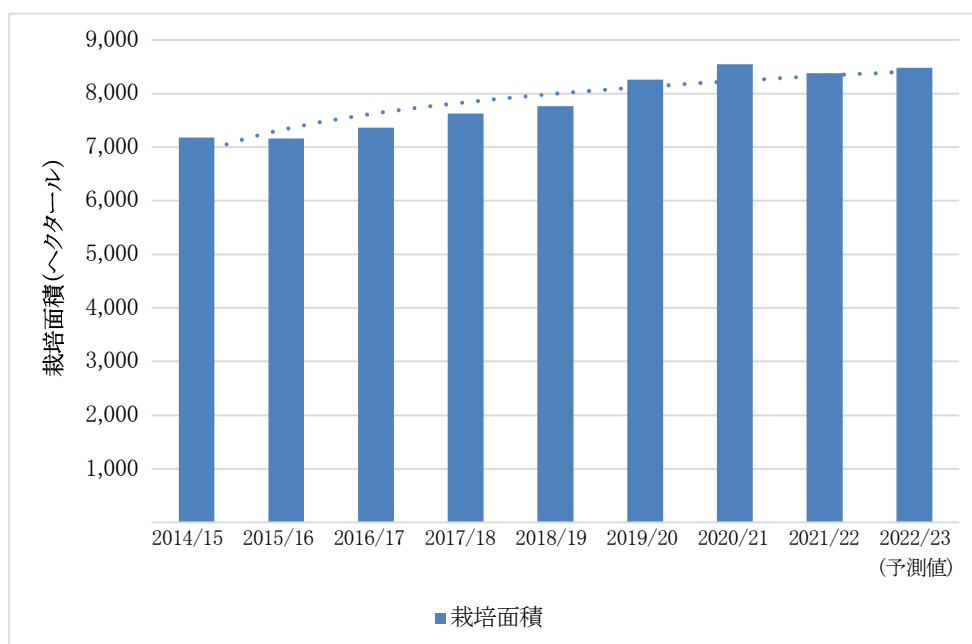
オレンジ(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年2月～翌年1月		2022年2月～翌年1月		2023年2月～翌年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,810	45,123	47,750	43,668	48,130	43,900
収穫面積(ヘクタール)	42,360	41,360	43,210	39,738	43,320	40,388
結果樹本数(千本)	41,300	41,300	42,130	42,130	42,240	42,500
未結果樹本数(千本)	4,575	4,575	4,665	4,495	4,930	4,000
果樹本数合計(千本)	45,875	45,875	46,795	46,625	47,170	46,500
生産量(千トン)	1,511	1,511	1,600	1,609	1,650	1,630
輸入量(千トン)	3	3	4	5	4	3
総供給量(千トン)	1,514	1,514	1,604	1,614	1,654	1,633
輸出量(千トン)	1,296	1,296	1,345	1,299	1,380	1,363
生鮮国内消費量(千トン)	95	95	85	135	90	115
加工仕向量(千トン)	123	123	174	180	184	155
総仕向量(千トン)	1,514	1,514	1,604	1,614	1,654	1,633

<グレープフルーツ(生鮮)>

栽培面積

南アフリカのグレープフルーツ栽培面積は、ヨーロッパ、アジア、中東を初めとする世界的な需要の急増に牽引され、過去7年間で18%成長した(図3)。ただし、世界的な需要の鈍化により、グレープフルーツの栽培面積は、今後数年間は横ばいになると予想される。さらに、農業投入資材コストの増加と輸送コストの上昇により、グレープフルーツ生産者の収益性が低下し、この業界での継続的な投資が制約されている。このため、当事務所は、ごくわずかの新植と、古い果樹園の伐根により、2022/23年度のグレープフルーツの栽培面積は2021/22年度の8,377ヘクタールから微増の8,477ヘクタールと予測する。

図3 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積の推移



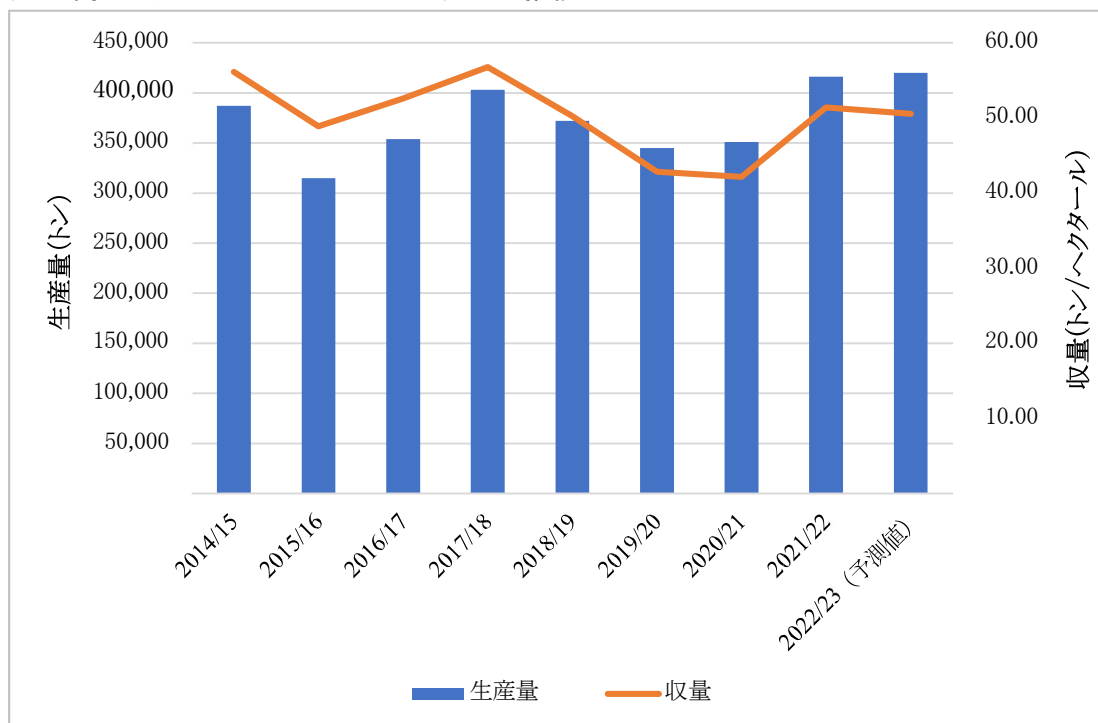
出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

リンポポ州は南アフリカのグレープフルーツ総栽培面積の59%を占める主要産地であり、ムプマランガ州(21%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がそれに続く。栽培されている品種では、世界的な需要が高いスタールビー(Star Ruby)が主要品種であり、総面積の88%を占めている。南アフリカで栽培されているグレープフルーツのその他の栽培品種は、マーシュ(Marsh)、Fe1(ジャクソン(Jackson))、ポメリット(Pomelit)、ローズ(Rose)、レッドハート(Redheart)等である。

生産

当事務所は、平年を上回る降雨量と平年並みの収量への回復に基づき、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を42万トンに上方修正する。当事務所はまた、2021/22年度のグレープフルーツ生産量の推計値を41万6千トンに引き上げ、これは2020/21年度の35万1,043トンから19%の増加となる。2021/22年度の夏の降雨シーズンはほとんどの産地で通常どおり始まり、シーズンを通して広範囲に雨が降り、十分な灌漑用水が確保され、生産量の増加を支える良好な条件が整った。さらに、ますます多くの若い果樹の結果が始まった。図4に、過去7年間の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示す。

図4 南アフリカのグレープフルーツ生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会(CGA)及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、2022/23年度のグレープフルーツの予測輸出量を22万トンに引き下げ、これは前年よりわずかに減少した2021/22年度の輸出量23万8千トンから8%の減少となる。これは、一部のグレープフルーツ産地がクラス2の果実の輸出用の梱包を減らし、国内の加工用に移行することを計画していることに基づく。

当事務所は、2021/22年度のグレープフルーツ輸出量を23万7,753トンと推定しており、これは前年度比18%の減少となる。昨シーズンの投入資材コストの増加と輸送コストの上昇により、一部の等級のグレープフルーツは輸出で利益を上げることができなかった。さらに、収穫時期近くにクワズールナタール州とリンポポ州全域で発生した洪水により、出荷の問題が生じた。大きな被害を受けた地域には(主要港がある)ダーバン市が含まれ、道路が損壊し、港の運営に影響が生じた。グレープフルーツは通常3月から9月の間に収穫されるが、洪水のため、一部の輸出が影響を受けた。

ロシアのウクライナ侵攻では、その開始直後にロシアへの出荷が停止され、南アフリカ産グレープフルーツの通常の貿易パターンに影響を及ぼした。しかし、ロシアへのグレープフルーツの輸出は同年のうちに再開

され、ロシアは2021/22年度の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の8%を占めた。

中国は2021/22年度の南アフリカ産グレープフルーツの主要輸出市場であり、輸出額の27%(6万3,470トン)を占め(表6)、オランダ(27%、6万3,408トン)、日本(10%、2万2,866トン)、ロシア(8%、1万9,429トン)がそれに続いた。これら4か国を合わせると、昨年の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の70%以上を占める。グレープフルーツの米国向け輸出量はまだ少ないが、2010/11年度の275トンから2021/22年度には6,184トンと、過去10年間で指数関数的に増加した。2021/22年度には輸出量全体の減少を反映して米国へのグレープフルーツ輸出量が30%減少したが、2022/23年度には成長が戻ると予想される。

2020/21年度には南アフリカは過去最高の29万607トンのグレープフルーツを輸出し、2019/20年度の輸出量24万4,334トンから19%増加した。

表4 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 1~4月(トン)	2022/23 1~4月(トン)	増減率
中国	77,707	63,470	-18%	7,488	3,572	-52%
オランダ	73,231	63,408	-13%	5,975	12,420	108%
日本	30,029	22,866	-24%	297	570	92%
ロシア	22,127	19,429	-12%	202	1,668	726%
英国	10,347	8,978	-13%	475	814	71%
大韓民国	4,547	7,427	63%	0	0	-
カナダ	8,351	7,168	-14%	373	1,197	221%
香港	13,130	6,862	-48%	889	829	-7%
米国	8,827	6,184	-30%	0	0	-
イタリア	11,118	4,854	-56%	837	1,428	71%
ポルトガル	5,475	4,472	-18%	216	601	178%
アラブ首長国連邦	4,795	3,831	-20%	427	836	96%
エスワティニ	2,135	3,372	58%	73	72	-1%
台湾	3,557	2,970	-17%	314	652	108%
ドイツ	719	1,744	143%	0	334	-
その他	14,512	10,718	-26%	1,267	1,922	52%
合計	290,607	237,753	-18%	18,833	26,915	43%

出典: Trade Data Monitor

表6 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月~12月		2022年1月~12月		2023年1月~12月	
販売年度	2021年1月~12月		2022年1月~12月		2023年1月~12月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,952	8,548	9,200	8,377	9,250	8,477
収穫面積(ヘクタール)	8,325	8,325	8,550	8,100	8,600	8,307
結果樹本数(千本)	8,240	8,240	8,500	8,500	8,595	8,595
未結果樹本数(千本)	980	980	1,000	1,000	955	955
果樹本数合計(千本)	9,220	9,220	9,500	9,500	9,550	9,550
生産量(千トン)	351	351	380	416	385	420
輸入量(千トン)	1	1	5	5	1	2
総供給量(千トン)	352	352	385	421	386	422
輸出量(千トン)	290	290	235	238	245	220
生鮮国内消費量(千トン)	3	3	3	4	3	4
加工仕向量(千トン)	59	59	147	179	138	198
総仕向量(千トン)	352	352	385	421	386	422

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

栽培面積

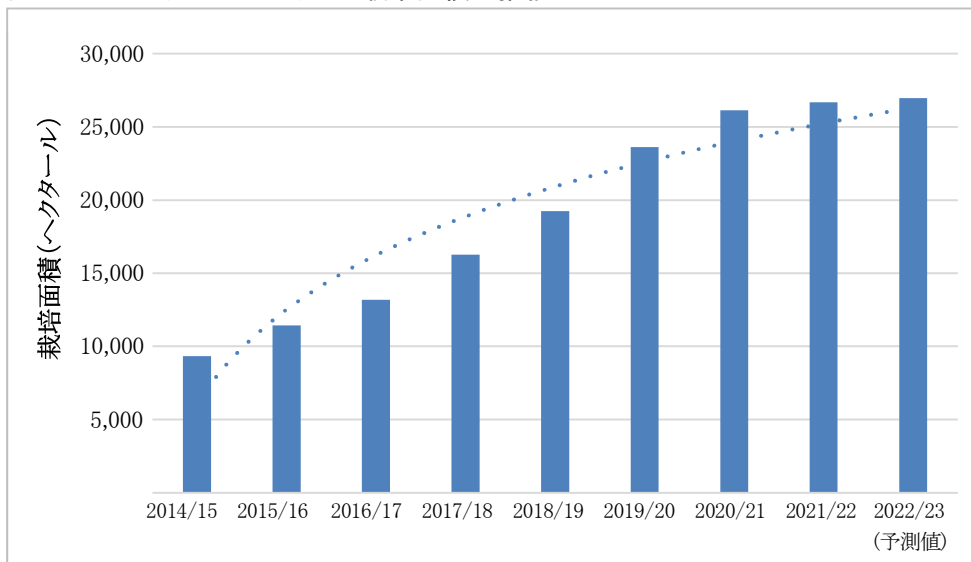
南アフリカのタンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)の栽培面積は、種なしソフト柑橘類の世界的な需要の高まりと、他の種類の柑橘類に比べた利益率の高さに牽引されて、過去7年間で指数関数的に増加した(図5)。ただし、当事務所は、苗の売上が引き続き減少傾向にあるため、2022/23年度にはソフト柑橘類の面積の拡大が鈍化すると予想し、栽培面積は比較的控えめの2万6,977ヘクタールと見込む。業界は、消費者へのインフレ圧力と予想される経済成長の減速により、EUや英国などの主要市場でソフト柑橘類の需要が鈍化していることを懸念している。さらに、農業投入資材コストの増加、輸送コストの上昇、インフラの非効率性、非効率的な港湾運営、道路網の劣化により、ソフト柑橘類生産者の収益性が低下し、業界では継続的な投資が制約されている。

2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、2020/21年度の2万6,137ヘクタールから2%増加して2万6,677ヘクタールとなった。害虫をより適切に防除し、より良い水管理を可能にし、強風、雹、日焼けによる損傷などの悪天候から果実を保護するために、保護ネットを備えたタンジェリン/マンダリンの園地が増加している。

2021/22年度には輸送コストが増加し、クラス2のタンジェリン/マンダリンの輸出の収益性が低下し、栽培面積拡大への投資がさらに制約された。また、より多くのクラス2及びクラス3の果実が国内市場に出回った。当事務所の情報提供者らは、昨年タンジェリン/マンダリンの一部が、商業的な販売機会が限られていたために利用されなかったことを確認している。

栽培されている主な品種はナルドコット(Nardocott)で、総栽培面積のほぼ19%を占めている。アークシットナイン(Arcit 9 12%)、ナル(Nule 12%)、タンゴ(Tango 11%)、ノヴァ(Nova 10%)、リアンリ(Leanri 9%)、オーリ(Orr 8%)がこれに続く。西ケープ州はソフト柑橘類の主要産地であり、総生産量の37%を占め、リンポポ州(28%)と東ケープ州(25%)がそれに続く。南アフリカのソフト柑橘類果樹園の40%以上は樹齢5年以下であり、これは今後数年間ますます多くのソフト柑橘類が市場に出回ることを意味する。

図5 タンジェリン/マンダリンの栽培面積の推移



出典: 柑橘類生産者協会(CGA)及び当事務所推計/予測

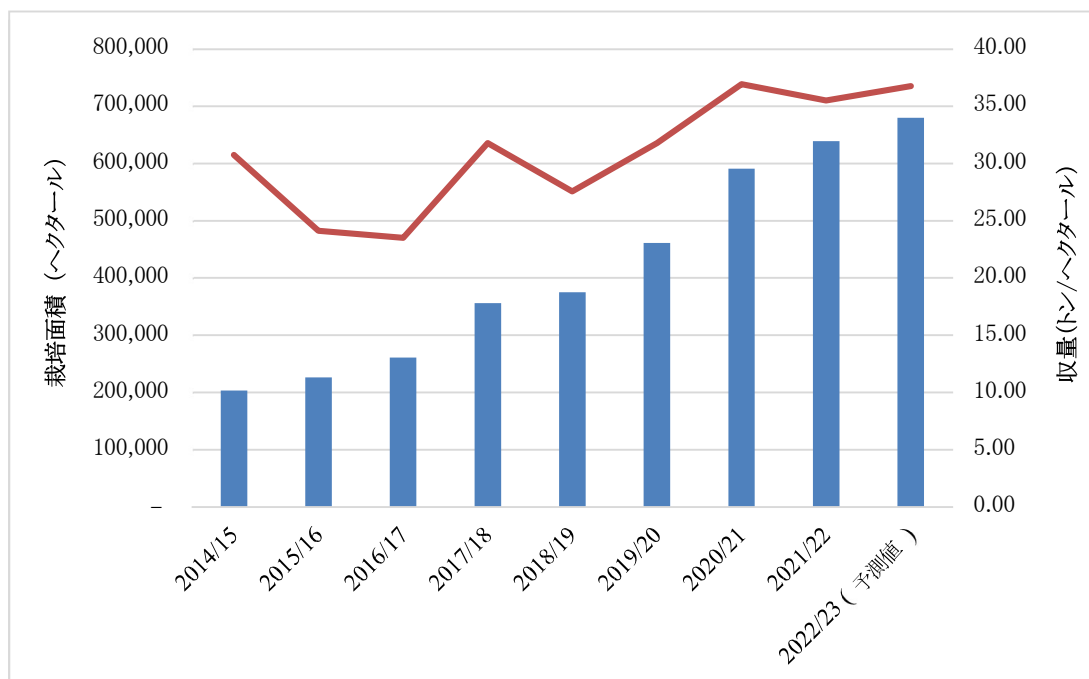
生産

当事務所は、2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの生産量を6%増の68万トンと予測する。十分な降雨により主要産地で灌漑用の水資源が確保されている。また、多くの新植園地が成園化している。

タンジェリン/マンダリンの生産量は、2021/22年度に前年度の59万1千トンから8%増加して63万9千トン

となった(図6)。これは、栽培面積の拡大、生育に適した気象条件、新しい果樹園に保護ネットを備える最近の傾向に基づいており、南アフリカにおける水効率、収量、及びソフト柑橘類の全体的な品質が向上した。

図6 タンジェリン/マンダリンの生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、2022/23年度の南アフリカのタンジェリン/マンダリン輸出量を、生産量の増加と輸送コストの正常化により7.5%増で史上最高の56万トンと予測する。南アフリカは2021/22年度に52万565トンのタンジェリン/マンダリンを輸出し、前年度の50万6,768トンから3%増加した(表7)。

表7 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリン輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 1~4月(トン)	2022/23 1~4月(トン)	増減率
オランダ	107,572	101,995	-5.2%	3,225	5,496	70.4%
英国	87,359	87,821	0.5%	5,034	7,143	41.9%
米国	43,665	53,489	22.5%	0	67	-
ロシア	39,600	51,336	29.6%	644	5,142	698.4%
アラブ首長国連邦	39,997	39,962	-0.1%	21	275	1209.5%
中国	24,098	23,117	-4.1%	0	23	-
カナダ	20,497	22,906	11.8%	352	747	112.2%
バングラデシュ	33,598	21,762	-35.2%	0	110	-
ポルトガル	9,651	10,853	12.5%	0	71	-
マレーシア	6,748	10,744	59.2%	6	45	650.0%
香港	6,866	9,475	38.0%	0	0	-
サウジアラビア	9,357	9,437	0.9%	0	24	-
アイルランド	7,797	8,288	6.3%	729	1,010	38.5%
イラク	10,112	6,137	-39.3%	45	0	-100.0%
台湾	4,486	6,020	34.2%	0	0	-
インド	2,917	5,161	76.9%	0	0	-
セネガル	5,189	4,997	-3.7%	0	0	-
フランス	5,459	4,461	-18.3%	0	0	-
その他	41,800	42,604	1.9%	640	848	32.5%
合計	506,768	520,565	2.7%	10,696	21,001	96.3%

出典: Trade Data Monitor

EUと英国は南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場であり、総輸出量の45%を占め、米国(10%)、ロシア(10%)、アラブ首長国連邦(8%)、中国(4%)がそれに続く。タンジェリン/マンダリンの輸出は、これまでのところEU市場で南アフリカにおける柑橘類の黒星病(CBS)の影響を受けていない。しかし、すべての柑橘類の輸出と同様に、ソフト柑橘類の輸出は、輸送コストの上昇、国内の港湾の課題、道路網の劣化の影響を受けている。さらに、EUや英国などの主要市場では、消費者へのインフレ圧力と予想される経済成長の減速のため、ソフト柑橘類の需要が鈍化している。

米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類の輸出は、過去5年間で指数関数的に増加し、2017/18年度の1万3,695トンから2021/22年度には5万3,489トンに増加した。この増加傾向は、AGOAの下で免税市場へのアクセスが継続することを前提として、「皮を剥きやすい」品種に対する消費者の嗜好の拡大により今後も続く予想される。2021/22年度には、米国は南アフリカの3番目に大きなタンジェリン/マンダリンの輸出市場であった(表7)。

表9 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年2月～翌年1月		2022年2月～翌年1月		2023年2月～翌年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	26,150	26,137	28,000	26,677	28,225	26,977
収穫面積(ヘクタール)	16,000	16,000	18,000	18,000	20,000	18,500
結果樹本数(千本)	9,000	9,000	10,500	10,500	12,000	12,000
未結果樹本数(千本)	3,500	3,500	5,000	5,000	4,950	4,950
果樹本数合計(千本)	12,500	12,500	15,500	15,500	16,950	16,950
生産量(千トン)	591	591	630	639	670	680
輸入量(千トン)	3	3	3	3	3	3
総供給量(千トン)	594	594	633	642	673	683
輸出量(千トン)	507	507	520	521	560	560
生鮮国内消費量(千トン)	43	43	45	45	48	50
加工仕向量(千トン)	44	44	68	76	65	73
総仕向量(千トン)	594	594	633	642	673	683

<レモン/ライム>

栽培面積

南アフリカのレモン/ライムの栽培面積は、世界的な需要の改善と価格の上昇に牽引され、過去7年間で2倍以上となった。しかし、レモン/ライムの栽培面積の増加傾向は、生産者が受け取る輸出価格の弱気な動向により、近年弱まっている。当事務所は、この状況は2022/23年度も続き、果樹の新植本数は古い果樹園の更新に過ぎず、栽培面積はほぼ横ばいの1万7,550ヘクタールと予想する。レモンの栽培面積の拡大ペースは鈍化しており、樹齢6～10年の果樹園が50%を占めているのに対し、樹齢5年以下の果樹園は総面積の14%に過ぎない。

レモンの主要産地である東ケープ州では、2022年11月に降雹被害があり、2022/23年度の収穫面積に影響を生じる可能性がある。また東ケープ州のレモン産地では、生産者らは2021/22年度の収穫期間中に労働者のストライキの影響を受け、収穫が約3週間遅れ、果実の品質に影響が出た。さらに、2021/22年度には輸送コストが高く、国内市場に出荷されるか加工用に売却されるクラス2及びクラス3の果実が増加し、収益性が低下して、生産拡大への投資が制約された。当事務所の情報提供者らは、昨年産のレモンの一部は、売り先が無いために利用されなかったことを確認している。

南アフリカのレモン/ライムの最大の産地は東ケープ州で、総栽培面積の42%を占め、リンポポ州(32%)と西ケープ州(14%)がそれに続く。南アフリカで栽培されるレモンで最も人気がある品種はユーレカ(Eureka)で、総面積の75%を占め、リスボン(Lisbon 8%)と2Ph シードレス(2Ph Seedless 6%)がそれに続く。

生産

当事務所は、東ケープ州で雹の被害によって収量が減少することから、2022/23年度のレモン/ライムの

生産量を13%減の65万3千トンと予測する。2021/22年度には、南アフリカは過去最高の74万8千トンのレモン/ライムを生産し、これは2020/21年度の62万7千トンよりも19%多かった。

輸出

2022/23年度の南アフリカのレモン/ライムの輸出量は、2%増で史上最高水準の57万トンと予測される。この推計は、輸出可能なレモンの生産量の増加、EU・英国市場の持続的な成長、及び中東・アジア市場の需要の伸びの予測に基づいている。

当事務所は、2021/22年度の南アフリカのレモン/ライムの輸出量を、2020/21年度の49万9千トンより12%多い55万7千トンと推定する。2021/22年度年には、東ケープ州で収穫期に労働者のストライキがあり、クワズールナタール州では洪水が北部のレモン産地とダーバン港を結ぶ道路インフラに損害を与えたにもかかわらず、レモンの輸出量は増加した。EUと英国は依然として南アフリカのレモン/ライムの主要な輸出市場であり、2021/22年度の総輸出量のほぼ50%を占めた。総輸出量の7%を占めるロシアへのレモン/ライムの輸出量は、2021/22年度にも横ばいであり、ロシアとウクライナの紛争の影響が限定的であることを示している。

中国へのレモンの輸出は、2021年8月に低温処理の要件が緩和された後、2021/22年度には10倍以上の約9千トンに増加した。南アフリカは世界的なレモンの主要輸出国であるが、中国へのレモンの輸出は昨年まで、果実に低温障害とそれに伴う腐敗を引き起こす低温処理の要件によって制約されていた。この輸出手順の変更により、将来的には南アフリカ産レモンの中国への輸出が強化されると予想される。

表12 レモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～12月		2022年1月～12月		2023年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	18,057	17,744	18,200	17,555	18,300	17,550
収穫面積(ヘクタール)	14,000	12,421	14,500	12,289	15,000	13,000
結果樹本数(千本)	7,500	7,500	8,410	8,410	8,700	8,700
未結果樹本数(千本)	2,900	2,900	2,140	2,140	1,910	1,910
果樹本数合計(千本)	10,400	10,400	10,550	10,550	10,610	10,610
生産量(千トン)	627	627	650	748	660	653
輸入量(千トン)	2	2	3	3	3	2
総供給量(千トン)	629	629	653	751	663	655
輸出量(千トン)	499	499	560	557	570	570
生鮮国内消費量(千トン)	27	27	28	35	30	45
加工仕向量(千トン)	103	103	65	159	63	40
総仕向量(千トン)	629	629	653	751	663	655

<オレンジ果汁>

製造

当事務所は、2022/23年度のオレンジ果汁の予測製造量を前年度比4%減となる3万1,313トンに下方修正する。この変更は、オレンジの加工仕向量の減少に基づく。2021/22年度には、南アフリカは過去最高の3万2,500トンのオレンジ果汁を製造し、南アフリカにおけるコロナ関連の厳格な封鎖措置により加工が大幅に制限された前年度から47%急増した。このことは、輸送コストが高いためにクラス2の果実がロシア向けの輸出から国内市場向けに転用され、それらの果実の一部がその後加工用に販売されたことにも一部起因していた。

当事務所の情報提供者らは、計画停電(負荷制限)中に発電機を動かすための燃料需要の増加により、加工コストが大幅に増加したことを示した。果汁は品質を維持するために一定の温度に保つ必要があることから、途切れることのない電力供給は加工部門にとって重要である。業界は、周年供給を確保するために、前シーズンからの持ち越し在庫を保持している。濃縮オレンジ果汁は、南アフリカで製造されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%を占めている。柑橘類業界は、生鮮柑橘類の輸出を優先し、輸出基準を満たさない果実

のみを加工している。

オレンジ果汁の業界統計は、南アフリカではほとんど利用できない。製造、消費、在庫水準のデータは、様々な情報源、情報提供者、及び生鮮オレンジの加工仕向量に関するデータから得られた情報に基づく当事務所の推定及び予測を表している。

輸出量

当事務所は2022/23年度のオレンジ果汁の輸出量を、原料果実の加工仕向量の減少により、2021/22年度の2万5,883トンより8%少ない2万3,850トンと予測する。すべてのオレンジ果汁の輸出データを、それぞれの変換係数に基づいて、以下の輸出表に示される65度ブリックス相当量に換算した。HS200919のオレンジ果汁の輸出量は係数1.02を使用して変換し、HS200912のオレンジ果汁の輸出量は係数0.18を使用して変換した。HS200911のオレンジ果汁の輸出量は、すでに65度ブリックスに相当するため、変換しなかった。度数ブリックスは、糖度に基づく果汁の濃度を表す。すなわち、65度ブリックスは、そのオレンジ果汁100グラム当たり少なくとも65グラムのスクロース(ショ糖)を含んでいることを意味する。(原文のまま)

南アフリカは、主にエスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等の南部アフリカ諸国にオレンジ果汁を輸出している(表13)。しかし、ヨーロッパも依然として南アフリカのオレンジ果汁の重要な市場である。南アフリカは米国へのオレンジ果汁の輸出量を2020/21年の158トンから2021/22年には1,229トンに670%増加させた。2022/23年度の南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出量は、1月から4月までの貿易量がすでに2021/22年度の総輸出量を上回っており、増加するものと予想される。

表13 南アフリカのオレンジ果汁輸出量(HS200919、HS200911、HS200912)

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22	2022/23	増減率
				1~4月(トン)	1~4月(トン)	
オランダ	5,850	7,087	21%	687	3,024	340%
エスワティニ	3,071	2,964	-3%	1,417	980	-31%
ボツワナ	3,715	2,804	-25%	724	2,121	193%
ナミビア	2,052	1,908	-7%	583	785	35%
イスラエル	470	1,606	242%	50	615	1,130%
ジンバブエ	900	1,229	37%	906	142	-84%
米国	158	1,000	533%	27	1,061	3,830%
レソト	1,106	916	-17%	135	255	89%
エチオピア	223	746	235%	188	242	29%
その他	4,658	5,623	21%	1,588	2,832	78%
合計	22,203	25,883	17%	6,305	12,057	91%

出典: Trade Data Monitor

表14 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年4月~翌年3月 農務省公式	今回推計値	2022年4月~翌年3月 農務省公式	今回推計値	2023年4月~翌年3月 農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	123,000	123,000	174,000	180,000	184,000	155,000
期初在庫量(トン)	16,890	16,890	12,150	12,150	15,920	12,365
製造量(トン)	22,140	22,140	31,320	32,500	33,120	31,313
輸入量(トン)	1,823	1,823	1,000	798	1,000	1,000
総供給量(トン)	40,853	40,853	44,470	45,448	50,040	44,678
輸出量(トン)	22,203	22,203	21,550	25,883	25,000	23,850
国内消費量(トン)	6,500	6,500	7,000	7,200	7,500	7,500
期末在庫量(トン)	12,150	12,150	15,920	12,365	17,540	13,328
総仕向け量(トン)	40,853	40,853	44,470	45,448	50,040	44,678